

<p>第9回：クラブ活動の特質と実践</p> <p>第10回：学校行事の特質</p> <p>第11回：学校行事の実践</p> <p>第12回：特別活動の評価・改善活動</p> <p>第13回：家庭・地域社会や関係機関との連携</p> <p>第14回：特別活動の国際比較</p> <p>第15回：学習指導要領とコアカリキュラム</p> <p>定期試験：あり</p>
<p>テキスト：汐見稔幸・奈須正裕 監修 『アクティベート教育学11 特別活動の理論と実践』</p> <p>ミネルヴァ書房、2020年ISBN 978-4-623-08538-5 (2,000円＋税)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年3月告示、文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年告示、文部科学省）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>・課題レポートなど 50%、 ・定期試験 50%</p>

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内田 直義
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、教育の方法、すなわち教室や授業、学習の形態、評価の基準、教材の活用などについて、教員採用試験も念頭におきながら基本的な見方・考え方と実際の学校現場における実践を学ぶ。本授業の到達目標は以下の3点である。すなわち、1. 工学や心理学等の知見を踏まえて教育方法の基本的な用語や概念を修得する、2. 教育に関する歴史や哲学、国際比較等の観点を踏まえて今日の日本の教育方法に対する見方を一歩深め、教育方法に関する応用的な知識を修得する、3. 将来、教職に就いて学校現場等で働くことを見据え、教育方法に対する受講者なりの考えと実践のイメージを持てる、である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、最初に教育方法論をめぐる基本的な見方・考え方について、主に理論的な側面に着目して理解する。中盤以降は、授業の本時において活用されている教育の諸技術について、学校建築や授業、教材のそれぞれの形態や活用法の知識を身につけるとともに、それぞれが成立した歴史的・理論的背景を理解する。また、授業の評価についての活用法を知る。授業後半では、それまでの授業で修得した内容をもとに、実際に受講者自身が指導案の作成および模擬授業と評価を行い、実践から教育方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションと参考図書紹介</p> <p>第2回：教育方法の基本原則① 知識と学習・学力をめぐる論点・</p> <p>第3回：教育方法の基本原則② 学習意欲と動機づけ支援・学ぶ意欲を高める・</p> <p>第4回：教育方法の基本原則③ 学習指導の基本原則・アクティブ・ラーニングを例として・</p> <p>第5回：本時の技術① 授業における指導技術・授業を成り立たせる諸要素・</p> <p>第6回：本時の技術② 個別指導と集団指導・学校建築の変容に着目して・</p> <p>第7回：本時の技術③ 授業を実施する教材・教科書の機能に着目して・</p> <p>第8回：本時の技術④ 情報教育とICT・教育における情報化の展開・</p> <p>第9回：本時の技術⑤ デジタル教材の利用・今日の学校でのICTの活用法・</p> <p>第10回：本時の技術⑥ メディア・リテラシーの育成・思考力とリテラシーの接点と指導方法・</p> <p>第11回：評価の技術① 教育評価・教育評価の5W1H・</p> <p>第12回：評価の技術② 授業研究・授業研究の理論と実践・</p>			

第13回：教育方法の実践① 授業づくり-学習指導案の考え方と作成方法

第14回：教育方法の実践② 授業の模擬・撮影・省察[前半]

第15回：教育方法の実践③ 授業の模擬・撮影・省察[後半]

テキスト

指定しない。適宜必要な資料を配布する。なお、各回スライドに対応した授業プリントを配布するが、データは授業前にLMS(WebClass)上にアップロードし、必要に応じて各自でダウンロードすることとする。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）と『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）、および各学習指導要領の解説。樋口直宏編著(2019)『MINERVA はじめて学ぶ教職11 教育の方法と技術』ミネルヴァ書房。日本教育方法学会編(2014)『教育方法学研究ハンドブック』学文社。

学生に対する評価

- ・ 授業への主体的参加(30%) 観点: 課題の提出状況/ グループワーク等への参加状況
- ・ 授業課題の取り組み(30%) 観点: 課題の出題意図の適切な理解/ 基本的な用語と概念の理解
- ・ 期末レポート(40%) 観点: 体裁と日本語の正しさ/ 内容の論理性/ 応用的な内容への取り組み/ 課題に対する独自の考察

授業科目名：ICT活用の 理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 延堂 雅弘 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解し、体験を通しながら教職としてのキャリア形成に位置付けさせる。			
授業の概要 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解させ、ICTを活用した学習活動や校務の実際と今後の在り方についてイメージを持たせる。			
授業計画 第1回：世の中の動きと「令和の日本型学校教育」 第2回：主体的・対話的で深い学びと情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法 第3回：ICTの進化と外部機関との連携 第4回：GIGAスクール構想の実際と基礎的な指導法 第5回：情報モラル、情報セキュリティとプログラミング教育 第6回：校務の情報化と教育DX 第7回：教材作成とまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を提示する。			
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出するレポート			

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原（寺澤） 奈津子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導および進路指導・キャリア教育の意義・目的についての理解を深める。自己指導能力の育成や主体的なキャリア選択という視点に立った援助の原理・方法を学習するとともに、学校内外の組織的体制に必要な知識・技能や素養を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 生徒指導および進路指導・キャリア教育の原理、及び、生徒指導上の諸課題（いじめ・暴力行為・不登校など）について理解を深め、適切な生徒指導のあり方について考察する。さらに、児童生徒が自らのキャリアを主体的に選択・決定できるような進路指導のあり方について習得する。			
授業計画			
第1回： 生徒指導とは			
第2回： 生徒指導の体制			
第3回： 児童・生徒理解と生徒指導			
第4回： 児童生徒全体への指導①学級経営と生徒指導			
第5回： 児童生徒全体への指導②日々の生徒指導の在り方			
第6回： 個別の課題を抱える児童への指導①現状の理解 1 反社会的行動を中心に一グループ発表			
第7回： 個別の課題を抱える児童への指導②現状の理解 2 非社会的行動を中心に一グループ発表			
第8回： 暴力行為・いじめへの対応			
第9回： 不登校への対応			
第10回： 今日的な課題への対応			
第11回： 進路指導・キャリア教育とは			
第12回： ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育①全体計画			
第13回： ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育②職場体験活動			
第14回： カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育			
第15回： ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育の模擬授業とまとめ			
定期試験			
テキスト			
文部科学省『生徒指導提要』 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf</a>			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

① 個人レポート (30%) , ② グループレポート (10%) , ③ テスト (60%)

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原（寺澤） 奈津子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 生徒の成長を助けるために役に立つカウンセリングの基礎知識及び技能を、学校や社会で即生かすことができるよう、役割演習などを通して体験的に学ぶ。また、生徒の各種の問題行動や心理的障害についての理解を深め、さらに適切な対処を行うための体制づくりについて考察する。			
授業計画			
第1回： 教育相談・カウンセリングマインドとは、その意義の理解			
第2回： 教育相談の基礎理論—精神分析			
第3回： 教育相談の基礎理論—来談者中心療法			
第4回： 教育相談の基礎理論—行動療法			
第5回： 教育相談の基礎理論—認知療法			
第6回： 教育相談の基礎理論のまとめ			
第7回： 生徒理解の方法			
第8回： カウンセリングマインドを体現する基礎的技法の演習①基礎的技能			
第9回： カウンセリングマインドを体現する基礎的技法の演習②質問技法			
第10回： カウンセリングマインドを体現する基礎的技法の演習③明確化			
第11回： カウンセリングマインドを体現する基礎的技法の演習④応用的技法			
第12回： 不適応や問題行動の理解①			
第13回： 不適応や問題行動の理解②—ジグソー学習を通じて			
第14回： 教育相談の進め方			
第15回： 教育相談の体制			
定期試験			
テキスト 文部科学省『生徒指導提要』 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf</a>			

参考書・参考資料等

鎌原雅彦・竹綱誠一郎「やさしい教育心理学 第5版」有斐閣アルマ ISBN 978-4641221468

学生に対する評価

① 課題およびレポート (40%) , ② テスト (70%)

## シラバス：教職実践演習

教職実践演習（中・高）		単位数：2単位	担当教員名： 渡邊 言美、原(寺澤) 奈津子		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	21人				
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>保育・教職支援課の企画監（元小学校・中学校校長）に3時間分の授業をお願いしている。模擬授業にあたっては、人文科学部各学科の教員及び各学科の教科教育法担当教員に出席を依頼して、質問・講評や授業評価を行っていただいている。コンプライアンス授業では岡山県教育委員から外部講師を招聘している。第2-5回の学校見学にあたっては市内公立中学校に終日見学を実施し、校長に講話をお願いしている。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目は中学校・高等学校普通1種免許状取得のための科目であり、「教職に関する科目」の4年次必修科目にあたる。人文科学部表現文化学科・実践英語学科・総合歴史学科各学生が合同で受講する。</p> <p>将来教員になるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、その定着を図ることを目標とする。</p> <p>より具体的には①使命感や責任感, 教育的愛情②社会性や対人関係力③生徒理解や学級経営④教科内容の指導力について確認する。就実大学ディプロマ・ポリシーのうち、「3. 専門的知識や技能を修得し、地域や国際社会で活躍することができる」の部分に対応し、学び続ける教員となるため、大学4年間で学んだ知識と、教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践力との更なる統合を目指す。将来教員になるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能などを補い、定着させる。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を行う。各回でグループ討論、ロールプレイ、事例研究を取り入れる。第2-5回の学校見学や、第10-13回の模擬授業等、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。第6, 8, 9, 14回ではゲスト講師3名に依頼し、教員のコンプライアンス、学級・学校経営、求められる教員像について、学校現場の状況をふまえて講義や演習を実施していただく。ICT活用について概説する。</p>					

### 授業計画

- 第1回：オリエンテーション（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第2回：中学校見学 校長講話（渡邊言美・原(寺澤)奈津子・中学校長）
- 第3回：中学校見学 授業見学・給食体験（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第4回：中学校見学 授業見学・授業展開の課題の把握（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第5回：中学校見学 授業見学・授業展開の課題の把握・まとめ（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第6回：教員に求められる使命感や責任感・教育的愛情（ゲスト講師 元小学校長）（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第7回：生徒理解の方法についての事例研究（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第8回：学級・学校経営についての演習（ゲスト講師 元中学校長（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第9回：学級・学校経営についての講義（ゲスト講師 元中学校長（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第10回：授業設計と模擬授業—模擬授業①（ICT活用含む）中学道徳（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第11回：授業設計と模擬授業—模擬授業②（ICT活用含む）中・高国語（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第12回：授業設計と模擬授業—模擬授業③（ICT活用含む）中・高英語（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第13回：授業設計と模擬授業—模擬授業④（ICT活用含む）中・高社会科・地歴（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第14回：教員のコンプライアンス（ゲスト講師 県教委）（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）
- 第15回：総括（渡邊言美・原(寺澤)奈津子）

### テキスト

使用しない。

### 参考書・参考資料等

青木秀雄(2017)『教職実践演習—磨きあい高めあう熱意ある教師に—』第2版、明星大学出版部

### 学生に対する評価

受講態度（20%）および提出課題（30%）、討論（20%）、模擬授業（30%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。